

シニア・健康

わが街で暮らす

諏訪市地域医療・介護連携推進センター ライフドアすわの取り組み

●●● 20

毎年9月21日は、「世界アルツハイマーデー」です。この日は、1994年に国際アルツハイマー病協会が、世界保健機関(WHO)と共同で制定しました。そして毎年9月を「世界アルツハイマー月間」として認知症への理解を深めるための普及・啓発活動が行われています。

私たち、ライフドアすわの認知症地域支援推進員(以下、推進員)も、認知症を正しく理解し、身近なことでしてとらえていただくために様々な活動をしています。

今年の7月には、オープンしたばかりの駅前交流テラスすわつチャオで、バーチャルリアリティ(VR:仮想現実)の技術を活用した認知症疑似体験コーナーを中心とし



なかに 田中 ひろみ
諏訪市地域医療・介護連携推進センター認知症地域支援推進員

た「認知症の方への理解を深め、誰もが安心して暮らせる地域をめざして」と題したイベントを開催しました。認知症の症状を文字だけでなく、VRで疑似体験することで、どんな気持ちで行動するのを感じ

認知症になっても安心して暮らせる やさしい地域をめざして

ることができません。そのことが認知症の理解につながると考えました。

今回、使用した体験プログラムは、認知症の中核症状のひとつで、距離感や高低差がわかりにくくなる「視空間失認」をテーマにしたものです。認知症の症状は多様で単なる記憶障害だけではないことをお伝えすることができました。体験後は、スタッフからの説明と共に振り返りを行いました。体験された方からは「認知症の人の不安や戸惑いがわかった。今後の関わり方の参考にしたい」「認知症について知らないことが沢山あることに気付いた」等の感想が聞かれました。また、イベントでは体験コーナーのほか、いくつかコーナーを開きました。



すわつチャオのイベントでの認知症疑似体験コーナーの様子

関係機関の専門職に声をかけ、ご協力をいただいた医療・介護・栄養・成年後見に関する【相談】や、認知症の症状や原因疾患、支援ネットワークの紹介等の【展示】、認

知症の方への接し方や本人・家族の思いを知る【映像・マンガ】など大変好評でした。広報すわ10月号では、推進員が行うさまざまな活動を掲載し、11月19日(火)に開催する「認知症予防・啓発講演会」のお知らせをさせていただきます。

2025年(令和7年)には認知症高齢者は約700万人前後に達し、65歳以上の高齢者の約5人に1人を占めると見込まれています。今や認知症は誰もが関わる可能性のある身近な病気です。だれもが認知症の正しい理解と知識をもつことが、認知症の人たちにとって暮らしやすい社会になるのではないのでしょうか。

これからも、行政や地域の方とともに、認知症になっても安心して暮らせるやさしい地域づくりに取り組んでいきたいと思います。

(毎月第2日曜日掲載、題字は河西秀樹・ライフドアすわ事務部長)

認知症の親とくらす ② 混乱のきっかけ

